

## シリーズ3，富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑬

## ルドベキア・フルギダ ‘ゴールドストラム’

職藝学院

教授 渡邊 美保子

ルドベキア・フルギダは、北アメリカ原産のキク科の宿根草です。ここ数年、園芸店では、たくさんのルドベキアの園芸品種が流通してきました。花卉が大きいもの、細いもの、草丈が2mになるものや、膝上ぐらいのものまでと様々です。今回ご紹介する品種のゴールドストラムは、ルドベキアの中でも花びらが細く、全体的に細身のしなやかな立ち姿が印象的です(写真1)。



写真1：ルドベキアの品種ゴールドストラム（黄色）とエキナセア（赤紫）

7月の中旬に一番花が咲き始めて、9月頃まで、ちらほらと黄金色の花が咲き続けます。宿根草の中でも開花期間がとても長い品種です。なぜなら、一本の茎から互い違いに枝分かれした茎が伸び、それぞれの茎の先で、また茎が分かれ蕾を一つずつ付け順番に咲き進んでゆくからです。一つの花は1週間ほど咲き続け、咲き終わる前に次の花が開きますので、いつ見てもくたびれた感じがしません。草丈はおよそ100cmになりますので、花壇の後ろの方に植栽すると良いでしょう。

ゴールドストラムの最大の特徴は、黄金色に輝く細くて長い花びらの美しさです(写真2)。朝日を浴びた

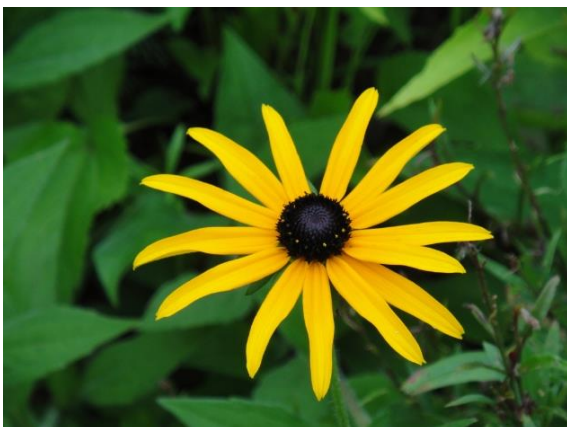


写真2：開花して間もないルドベキアの品種ゴールドストラム。7月中旬。

花びらと、夕日に染まる花びらの色を、ぜひ見比べてみてください。朝は、すっきりとしたレモン色、夕暮れ時には赤みを帯びた金色に見えてくるのが不思議です。お天道様が沈む間際の花の移ろいを眺めていると、とても元気になります。

もうひとつの特徴は、蕾の姿です。まるで両手の指を交互に組み合わせた中に、とても大切なものを隠しているように見えます。組んだ指を一本一本順番に広げてゆくように花びらが開きます。一日ごとにゆっくりと開くので開花の瞬間に立ち会うこともできます。花びらが開くと、マーブルチョコレートのようなものが隠れていたことがわかります。これは、頭状花です。よく見ると黄色い小さな星のようなものが、ぐるりと一周して光っています。花の中心部は、一週間後には黒い毛糸玉のように丸く膨らんでいきます。花びらがとろけるように落ちた後には、この毛糸玉の先がだんだん尖ってきて空中に浮かんでいるように見えます。この姿も面白いのでそのまま楽しめますが、そうは思えないという方は、切ってしまっても大丈夫です。

ゴールドストラムは、日当たりを好み、猛暑にも耐えてくれます。雨を嫌がることもなく適度な湿り気のある土でも大丈夫なようです。病害虫にも強く、全く手間いらずの宿根草です。小さい花壇では、一株をのびのびと育てたほうが花の一つ一つが込み合うことなく、ゴールドストラム本来の花の美しさを楽しめます。

組み合わせは、ゴールドストラムの後ろに宿根アスターや、紫色のバーベナ・ボナリエンシス(写真3)、また、株の周りをピンクの宿根フロックスや、赤紫色のエキナセアなどで囲んであげると暴れにくくなります。



写真3：ルドベキアの品種ゴールドストラム（右）とバーベナ・ボナリエンシス（左）